

平成29年度 第1回
広島市公共事業再評価審議会

街路事業

- ・都市計画道路 比治山東雲線
- ・都市計画道路 霞庚午線(8・9工区)
- ・都市計画道路 東雲大州線外1
- ・都市計画道路 山の手線外1

平成29年11月17日(金)

広島市道路交通局道路部街路課

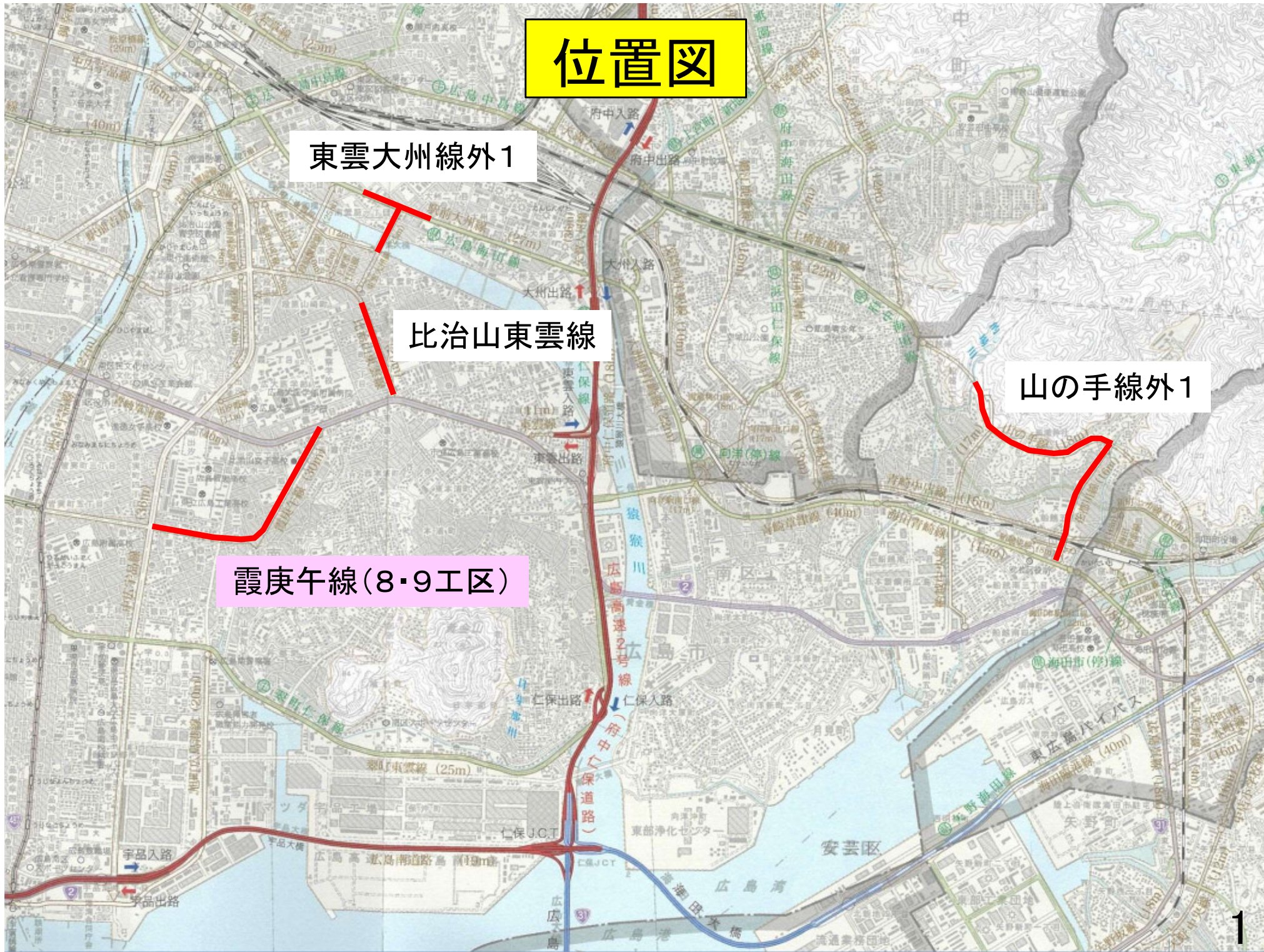
位置図

東雲大州線外1

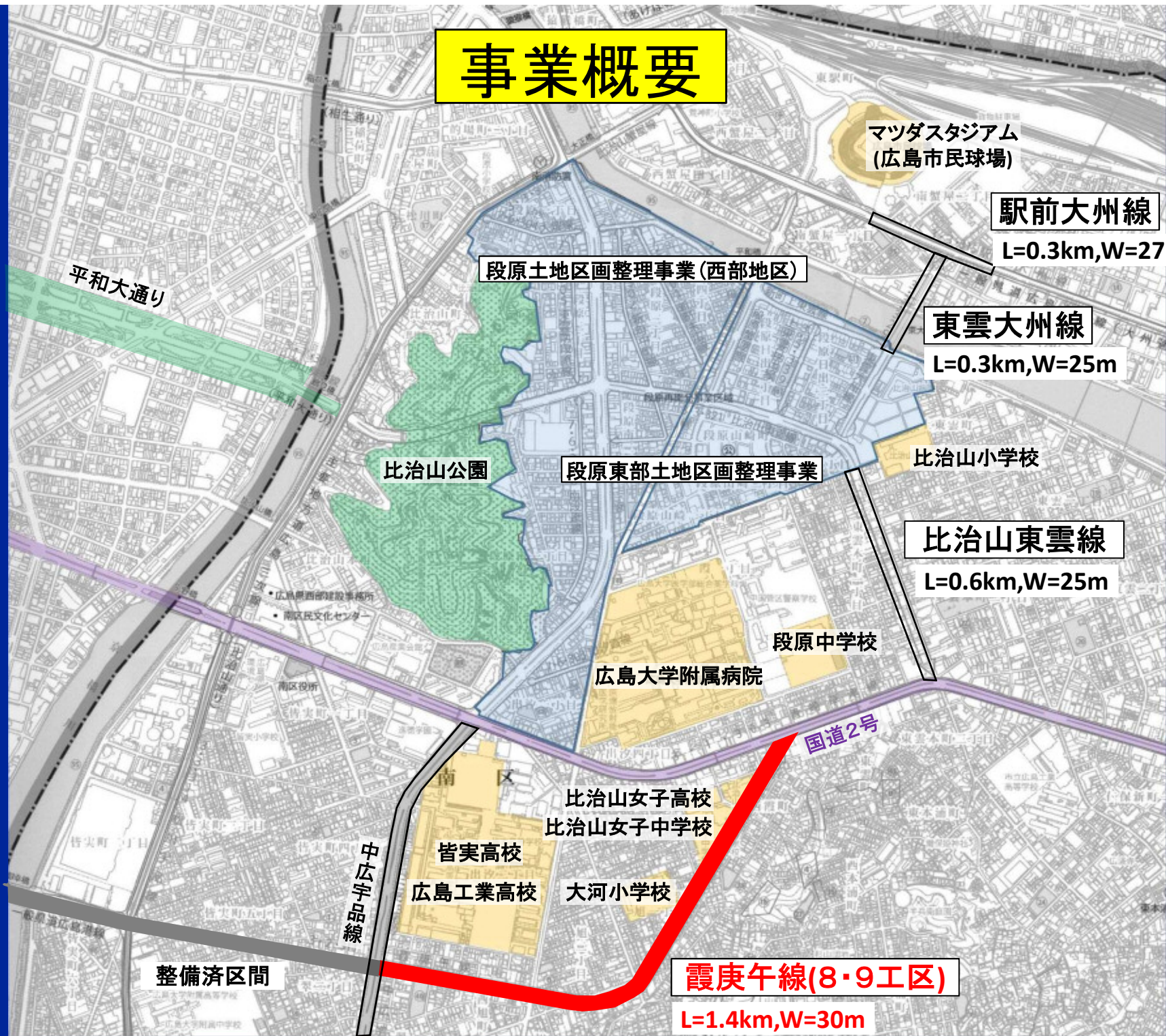
比治山東雲線

山の手線外1

霞庚午線(8・9工区)



事業概要



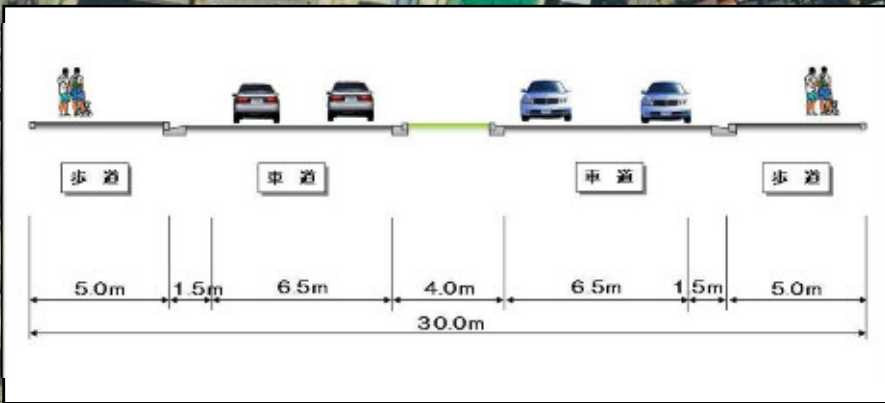
延長	L=1,360m
幅員	W=30m(4車線)
予定期間	H10~H30年代前半
全体事業費	172億円

事業概要

広島大学附属病院

比治山女子高校
比治山女子中学校

大河小学校



霞庚午線(9工区)
L=710m,W=30m

霞庚午線(8工区)
L=650m,W=30m

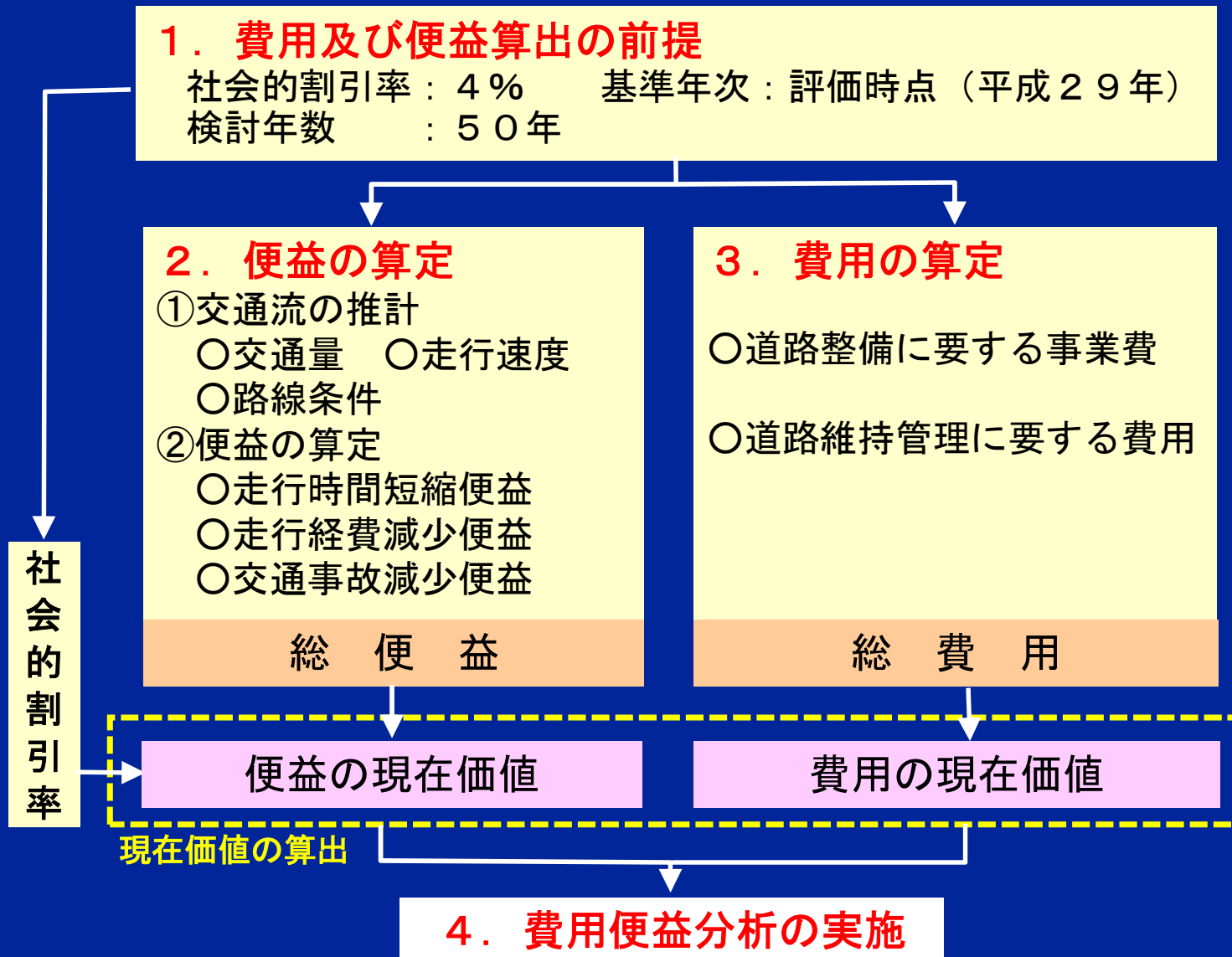
視点① 事業を巡る社会情勢等の変化

平成26年3月に広島南道路・広島高速3号線（吉島～商工センター）が供用されたが、国道2号出汐交差点等で依然として渋滞が発生。



視点② 事業の投資効果

■費用対効果分析のフロー



視点② 事業の投資効果

■費用対効果分析の結果

【費用便益比(事業全体)】

$$\begin{array}{ccc} \text{総便益(B)} & \div & \text{総費用(C)} \\ 245.6\text{億円} & & 233.5\text{億円} \\ & & = \\ & & \text{費用便益比(B/C)} \\ & & 1.1 \end{array}$$

【費用便益比(残事業)】

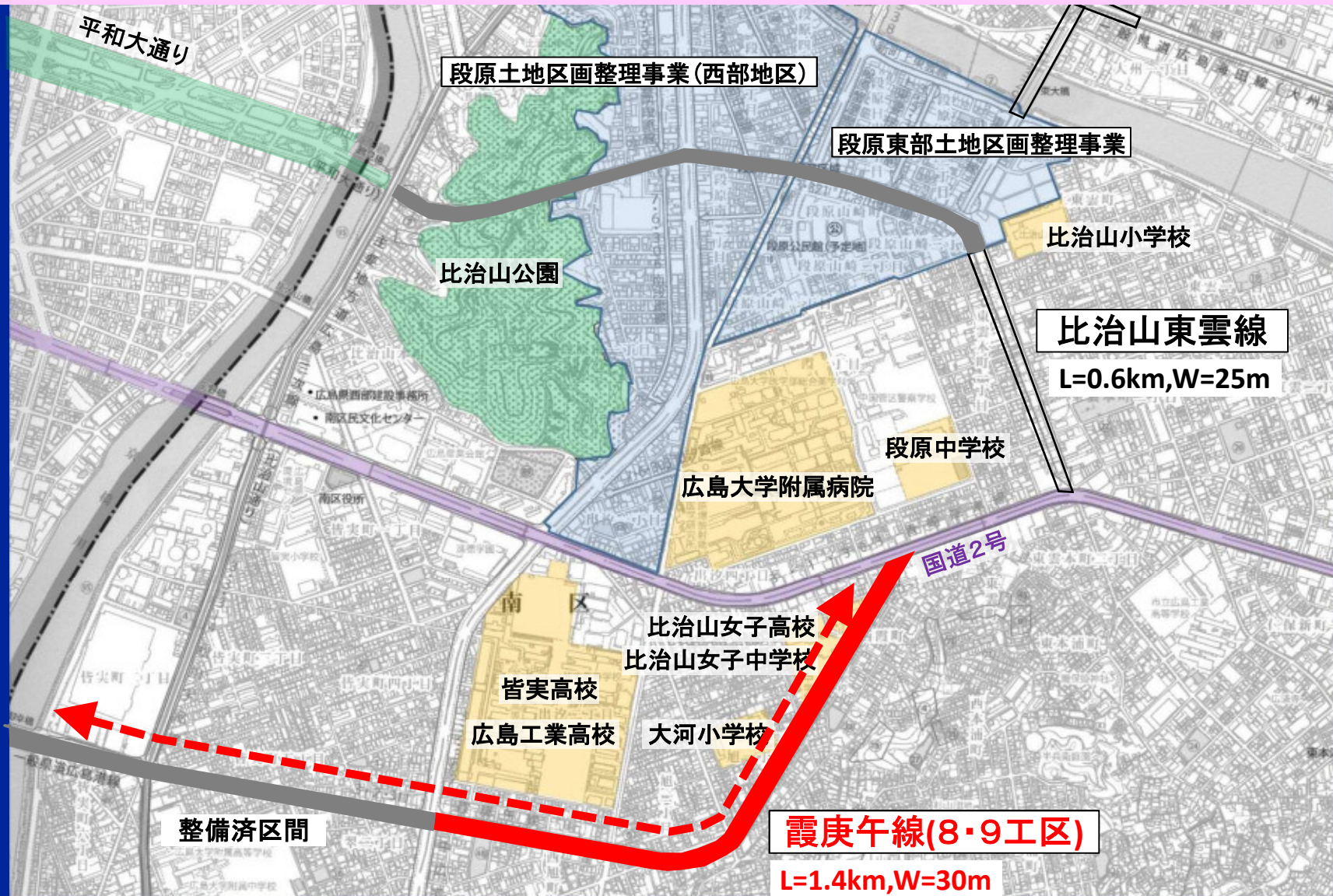
$$\begin{array}{ccc} \text{総便益(B)} & \div & \text{総費用(C)} \\ 245.6\text{億円} & & 22.8\text{億円} \\ & & = \\ & & \text{費用便益比(B/C)} \\ & & 10.8 \end{array}$$

総便益(B)が総費用(C)を上回っている

視点② 事業の投資効果

■事業の効果や必要性 【国土・地域ネットワークの構築】

国道2号を補完し、デルタ市街地南部の東西交通を円滑化



視点② 事業の投資効果

■事業の効果や必要性

【国土・地域ネットワークの構築】

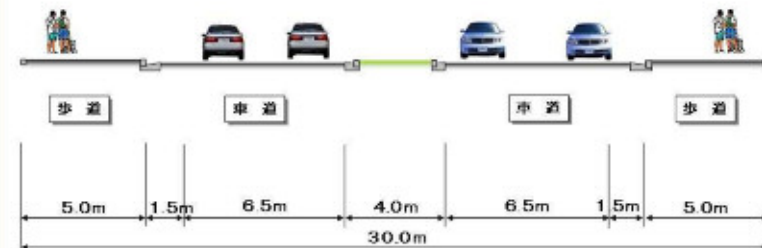
大型車通行規制が解消



(整備前) 幅員約5.5m



(整備後) 幅員30m



視点② 事業の投資効果

■事業の効果や必要性

【歩行者・自転車のための生活空間の形成】

歩行者や自転車の安全性が向上



視点② 事業の投資効果

■事業の効果や必要性

【無電柱化による美しい町並みの形成】

電線類地中化により良好な都市景観が形成



整備事例(段原東部土地区画整理事業区間)

視点② 事業の投資効果

■事業の効果や必要性

【安全で安心できるくらしの確保】

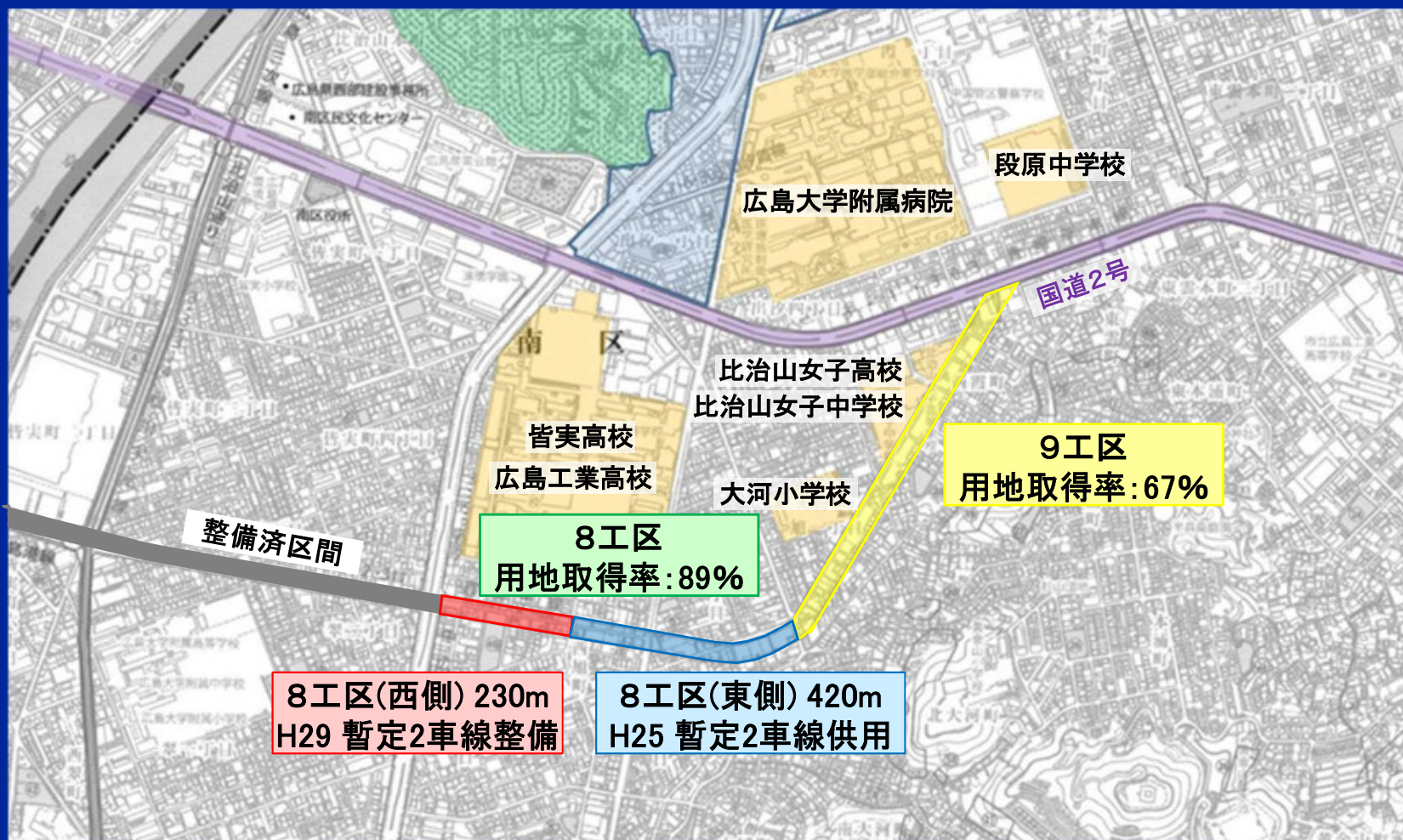
三次医療施設である広島大学病院へのアクセス性が向上

※三次医療施設…高度な医療が必要な重篤救急患者が対象



視点③ 事業の進捗状況

- ・用地取得率は約8割、事業進捗率は約8割まで進捗。
- ・平成25年10月に8工区東側420mを暫定供用。



視点③ 事業の進捗状況

用地取得及び暫定道路整備を推進。

8工区(暫定道路整備状況)

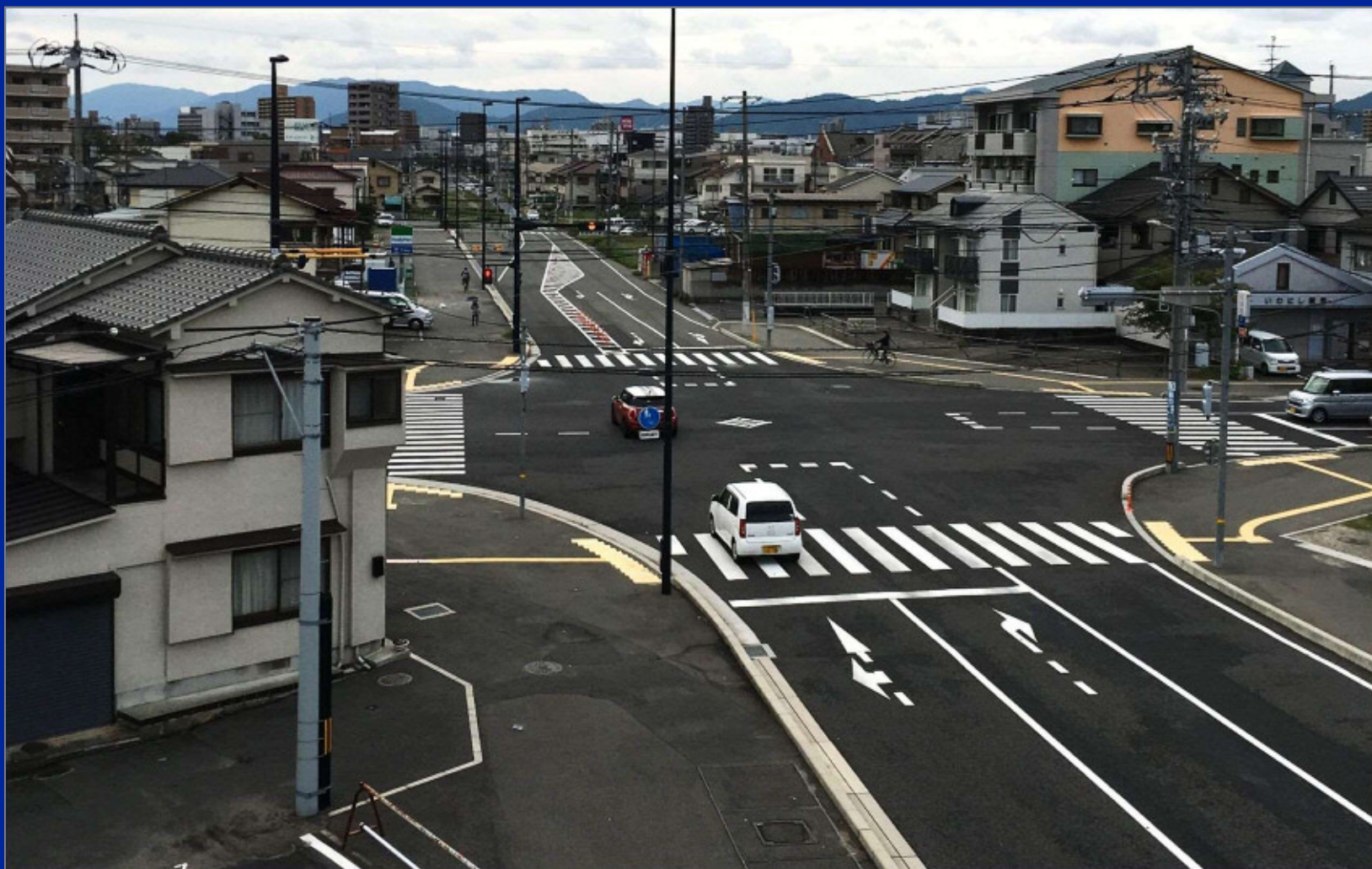


9工区(用地取得状況)



視点④ 事業の進捗の見込み

今年度中には8工区西側230mの区間を新たに暫定道路整備するなど、整備効果の早期発現に努めていく。



視点⑤ コスト縮減や代替案立案等の可能性

■コスト縮減の可能性

【道路改良工事】

建設副産物の発生抑制や新技術の採用等


【電線共同溝工事】

浅層埋設方式の採用や道路改良工事との同時施行

■代替案立案等の可能性

○ 最適なルートとして都市計画決定。

○ 8割の用地を取得し、暫定道路整備など事業を着実に推進。



現行ルートが適当

対応方針（案）

【対応方針】 事業継続

【理由と今後の方針】

霞庚午線は、国道2号を補完し、広島市のデルタ市街地南部を東西に横断する幹線道路であり、全長約6.8kmの内、西区庚午中四丁目から中広宇品線までの約5.4kmを供用している。

本路線（区間）は、現道の大型車の通行規制を解消し、主要渋滞箇所である国道2号出汐町交差点の迂回ルートになるとともに、災害時には緊急輸送道路としての機能を担うなど整備効果が高い路線である。

これまでに約8割の用地取得を終えており、今年度末には、新たに8工区の暫定整備を予定するなど、着実に事業を推進しており、引き続き事業を継続し、早期完成を目指す。